



### 地域合同防災訓練

「自助」と「共助」、これが有明台地区の防災の合言葉です。有明台地区は、以前から自主防災の組織がしっかりとしており、平成26年度には、防災教育のモデル校に指定されたこともあります。毎年防災訓練を実施していますが、今年度も「学校」「地域」「保護者」が一体となった大規模な防災訓練を実施しました。合計で500人を超える人が参加しました。



#### 子どもの声



ぼくは、防災訓練でAEDの使い方を学びました。災害が起こったときに、人が倒れていたら、すぐに大人の人に知らせたり、自分でAEDを見付けたりして、周りの人と一人でも多くの命を救えるようにしたいです。これからは、災害が起きたときに役に立つ地域の防災設備を調べたいと思っています。

# 地域を再点検し、防災の視点から “守る” 仕組み探しへ

#### きらつと発見

### 地域の危険を調べてみると…

日頃、登下校などで何気なく通っている道や地域の危険を調べてみるといろいろなことが分かりました。

地域によって、行き止まりが多かったり、道が狭かったりしました。また、有明台地区は、区画整備された住宅街や昔ながらの商店街が立ち並ぶ地域があります。地域によって、避難するときに違いがありそうでした。

そして、昔、堀があった場所は、周りよりも土地の高低が低く、水がたまりやすいことに気が付きました。



#### きらつと発見

### 学校の横を流れる関屋分水では…

少しの雨でも、増水のための氾濫による決壊に注意するために、職員さんが水量を注意深く見ていることが分かりました。

大雨になると、信濃川の上流から大量の水が流れてくるけれど、水門を開けて、日本海にどんどん流すということに驚きました。



#### きらつと発見

### 学校の周りの施設では…



幼稚園、老人ホームに共通していたことは、避難用の滑り台があったことです。また、幼稚園では、誘導ロープで子どもたちが安全に避難できるようにしていました。老人ホームでは、車いすが4台も乗るエレベーターになっていました。

施設は違いましたが、その施設で過ごしている人に合わせた工夫がありました。

#### 子どもの声



関屋分水路には、信濃川の水量を調節して新潟市を洪水から守ったり、新潟海岸の浸食を防いだりしているなどの効果があることが分かりました。関屋分水路にかかわってきたたくさんの人たちの努力で、災害から守られているので、私も人々のためになるようなことがしたいと思いました。



今回、地域の防災設備について調べてみて、とても防災に力を入れている地域だと分かりました。また、有明台地区はお年寄りが多いということも分かりました。地域で協力して、災害に備えたり、防災設備を整えたりすることがとても大切だと思いました。